

# ともしび ブダより

第89号



グループホーム和田  
移設開所いたしました

## 社会福祉法人 依田窪福社会

### 事業別連絡先一覧

- |   |          |                                |          |
|---|----------|--------------------------------|----------|
| ●法人本部<br>[E-mail] info@yodakubofukushikai.jp<br>[U R L] http://www.yodakubofukushikai.jp/ | ☎85-2202 | ●デイサービスセンター 武石                 | ☎75-0522 |
| ●依田窪特別養護老人ホーム<br>●短期入所生活介護事業  | ☎85-2218 | ●デイサービスセンター 長門                 | ☎68-0226 |
| ●依田窪福社会居宅介護支援事業<br>●相談支援事業 花もも  |          | ●小規模多機能型居宅介護 大門の家              | ☎41-2123 |
| ●ヘルパーステーションこすもす   | ☎85-0098 | ●デイサービスセンター 和田<br>●高齢者生活福祉センター | ☎88-0077 |
| ●寄り合い処 なすな  | ☎75-0522 | ●グループホーム和田                     |          |

## すばらしい環境でグループホーム新設と 待望の武石地域デイサービス事業の開所



理事長

渡邊 和美

今、コロナ禍で、世界中の人々によって叡智の限りを尽くしウイルスと闘っている中、緊急事態宣言が解除された途端に、全国各地に感染者が増加し、第4波(令和3年4月30日現在)と言われる状態になり、ウイルスの感染力・重症化リスクが高い変異株感染となってきました。報道等によりますと、第3波までは高齢者の罹患が多かったけれど、今回は比較的若い世代に広がっており、幅広い年齢層で重症化し、基礎疾患のない人でも重症化しております。また、高齢者施設での集団感染も発生しております。当法人では幸いにも感染者は出ておりませんが、感染予防対策に万全を期すよう、職員・ご利用者の皆様に対しまして、マスクの着用、手洗い、手指消毒等の徹底をお願いしております。また、「ともしび」等入所施設ではご利用者の皆様とご家族様との面談を「窓越し」等で行っており、大変ご迷惑やご不便をおかけしておりますが、これも偏に、ご利用者の皆様の安全と安心を守るための施策でございます。皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。そして、コロナワクチン接種が全国民に行き渡り、ある程度の収束を見たといいたしましても、おそらく私たちの暮らしが元に戻ることはないのではないかと思われます。こうした中にありましても、歯を食いしばり地域の福祉を支えるために、また、現場で汗を流す職員のために、法人として何をすべきかを考えながら事業展開をしております。

さて、羽田長和町長、長和町議会、地域の皆様のご協力によりまして、橋場地区のグループホームを旧和田診療所跡地に移転新築していただき、本年2月3日に鍵の引き渡し式、同3月27日に開所式を行いました。この施設の全権を委任されました依田窪福祉会と致しまして、職員一同、地元の皆様に愛され、信頼される施設「新生 グループホーム和田」のために一層努力してまいりますので、今後ともご指導とご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

また、依田窪福祉会が設立されて以来25年の懸案事項でありました、上田市社会福祉協議会が運営をしていました武石地域のデイサービス事業が、令和3年4月から事業の移管をいただき、依田窪福祉会で運営をしております。

この事業移管されるまでの経緯を申し上げますと、長和町が合併当時、依田窪南部三ヶ町村(旧長門町、旧和田村、旧武石村)のそれぞれの社会福祉協議会が事業主体として、デイサービス・ホームヘルプ事業を展開しておりましたが、介護保険制度が始まった1年後の平成13年に旧長門町、旧和田村のデイサービス・ホームヘルプ事業が依田窪福祉会に移管されました。旧武石村の事業につきましては、願ひ叶わず、上田市社会福祉協議会が引き続き事業運営することになりました。

その後、依田窪福祉会が武石地域と長和地域の高齢者福祉の拠点施設としての自覚と立ち位置から、平成28年3月以降、羽田長和町長の御協力をいただきながら、依田窪福祉会から上田市・上田市社会福祉協議会に事業移管を要望してまいりました。そして協議を重ねている中、時の経過とともに諸事情と情勢変化が発生し、上田市と上田市社会福祉協議会のご理解とご協力を頂くことができ事業移管となりました。このことによりまして、長和町、上田市武石地域ほぼ全ての介護サービス事業が依田窪福祉会に統一され、関係市町のご利用者・地域の皆様にとりまして大きなメリットとなり、より一層、暮らしやすい地域となることにつながるのではないかと考えております。

今後とも、地域の皆様のために邁進して参りますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。





4月2日、緊張の中、新しい職員体制でデイサービスセンター武石がスタートしました。依田窪福祉会では、長門、和田に加えて武石にもデイサービスの基点を置くことになりました。しっかりと地域に根付き、みなさんに頼られるサービスを展開していけるよう職員一同頑張ってお参ります。

さて、職員の顔ぶれも変わり、ご利用者のみなさんともまどいを持たれながら一日、一日とご利用を重ねていただいております。今までと少し流れが変わったこともあり「申し訳ないですね」と、お話しすると「いいんだよ、職員さんたちも大変だけどよろしくね」と、優しいお言葉をいただいております。いきなりの脳トレ問題に「むずかしいなあ」と言われながらも挑戦していただいたり、ご利用者が先生になって、グループで箱折をし

たり…。デイサービスに通う楽しみや張り合いを、ご利用者との関わりの中でたくさん見出していきたく思います。

デイサービスは、ご自宅から一歩外に出ることで、地域の方々との交流があり、刺激になることがたくさんあります。小さな出来事でも、それが在宅生活の継続の力に繋がるよう、ご利用者一人一人に沿った支援に取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



### ヘルパーステーションにすもす

#### 信頼が得られる コミュニケーションを目指して

ヘルパーの仕事は身体介助、生活援助はもちろんですが、体調観察やコミュニケーションも大切に考えています。「昨日は、娘が来てくれたんだよ。」「久しぶりに会えて良かったですね。」「孫が結婚するんだよ。」「それはおめでとうございます。」

話してくださる表情は嬉しそうです。そんなお話をお聞きすると、私たちも嬉しくなります。「今日は、足が痛くてね。」「どうされましたか？転んでいないですか？」様子を伺い必要であればケアマネジャー、訪問看護に連絡させていただいております。

ご利用者が今日もお元気な声を聞かせてほしい…。そう願いながら私たちは訪問に向かいます。

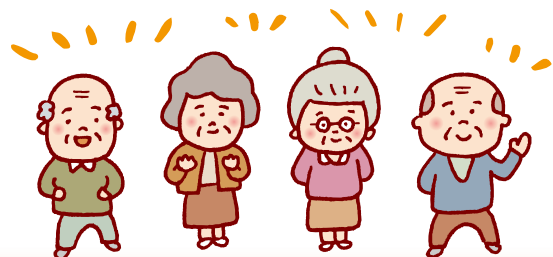


### 寄り合い処 なずな

令和3年4月から「寄り合い処 なずな」がスタートしました。事業所の名称「からさわ」から「なずな」に変更し、場所もからさわ地区からデイサービスセンター武石内の一角に移りました。

事業所名、場所も変わり、ご利用者の皆さん最初は少し戸惑いを感じていたようですが、現在はすっかり慣れてきていただき、毎週木曜日は笑いに満ち溢れている日になりました。

これからも、「なずな」が今まで以上笑いで溢れ、楽しい場所になるよう職員一同努力していきたいと思っております。コロナ感染症が落ち着きましたら外出等も計画をしていく予定です。早くコロナ感染症が終息することを願うばかりです。



## 特別養護老人ホーム ともしび

ライン

### LINE面会始めました

入居されているご利用者の特養ともしび在所平均年数は2年9か月です。(4月1日現在)ご利用者の皆さんは、長くご家族と離れて暮らしていても、いつも家族を思い、家 pensando 生活されています。

コロナ禍で、自由にご家族と会えないのはとてもさみしいことと思います。スマートフォンやタブレットを使っでのオンラインでの面会は、ご利用者にわかっていただけなか心配だったのですが、やってみた方は画面の向こうの家族をご覧になって、ニコニコされています。お顔を見ることが出来て安心できたのでしょうか。

単調になりがちな施設での生活ですが、出来る限りいつもの年のように、余里の花ももを見に行ったり、しょうぶ湯を楽しんだりしたいと思います。夕涼み会の際には、全員コロナワクチン接種が済んでいるのでしょうか。安心して生活できるようになるよう願っています。

LINE面会をご希望のご家族様は、ともしび事務所までご連絡ください。



### 感染症予防着、脱着の練習をしました



### 窓越し面会も行っています



## 依田窪福社会居宅介護支援事業

### 熱中症に注意しましょう。

新型コロナウイルスのワクチン接種が始まっています。副反応等の心配がありますがワクチン接種により感染予防ができるようです。海外ではマスクを外しての生活に戻りつつあるとの報道もあり、早く今までの「当たり前にあった日常」を取り戻したいものです。

さて、夏本番を前に、湿気とともに気温も上昇する6月。体が熱さに慣れていないこの時期から夏にかけて特に注意したいのが「熱中症」です。新型コロナウイルス感染予防のためマスクを着用していることもあり注意が必要です。

熱中症の始まりは体の水分不足、「脱水」です。こまめに水分を摂りましょう。

#### 水分の上手なとり方

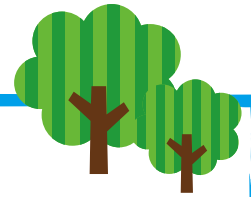
1日の目安摂取量は1.5L(常温に近い温度の水が最適)  
コップ1杯(150~200ml)を、7~8回に分けてこまめに飲む

特に ①起床時 ②運動の前後 ③入浴の前後 ④就寝前 には水分補給を忘れずにしましょう。

脱水や熱中症は屋内でも起こります。エアコンや扇風機を上手に使いましょう。日頃から栄養バランスの良い食事や十分な休息をとり、暑さに負けない体づくりをすることも脱水や熱中症の予防になるので注意し元気に夏を迎えましょう。



## デイサービスセンター和田



春は出会いと別れの季節です。デイサービスセンター和田でもこの春、職員の異動や新たなご利用者との出会いがありました。

新しい環境というのは誰しも緊張するものですが、認知症があるお年寄りのご家族にとっては症状を左右する大事な事柄です。慣れない環境は「時間・場所・人」の認識をしにくくし、適応できず混乱してしまう原因となることがあります。

私たちは新しく来られた方に、生活、好きなことや嫌いなこと等色々お聞きしたり、知り合いの利用者の方と一緒に過ごして安心してもらったりしながら徐々に馴染めるように場を整えて差し上げてい

ます。

デイサービスは、いつでも利用者みなさんの不安な心に寄り添い、困ったときに頼れる拠り所でありたいと考えています。



ゲートボールで使用するゲートを作ってもらいました。



完成!! なかなかのものです。

### 小規模多機能型 居宅介護 大門の家



職員体制も変わった新年度早々、遠方に住んでいらっしゃるご利用者のご家族と電話でお話をする機会がありました。会話をしながら、このコロナ禍で面会もままならない状況に「どう過ごしているのか」「どんな職員が介護しているのか」など、様々な不安を抱えていることがひしひしと感じられました。そこで、新年度スタートに在職する職員の顔写真と名前を入れたカードをご挨拶状としてご利用者のご家族にお配りしました。後日、「カードを拝見しました。こういう方々にお世話していただいていることが分かり、安心しました。」と、大変喜んでいただけました。

日常の忙しさに、つつい自分の都合で物事に対処してしまい、“相手の立場に立って考える”ことを忘れがちです。改めて、大切な原点に触れたような気がしました。



### 季節を楽しむ

### デイサービスセンター 長門だより

春のお花見は季節を感じられる重要なイベントです。すいせん、桜、花桃。「いいお天気ね」「まあ綺麗」「嬉しい」「今度はお花見して、美味しいもの食べたいね」

春の風、芽吹き、花の色、匂い、鳥の声を感じ清々しい気持ちになり癒されます。

また、元気がでてきて前向きになり介護予防につながります。

デイ長門と一緒に笑って楽しめる、安全で楽しい外出レクやお散歩を企画していきます。



## グループホーム和田

3月28日、他事業所の職員とお天気を味方に、無事に引っ越しをすることができました。

環境の変化というものは、人に大きな影響を及ぼすものです。私自身、グループホームに異動になった時は不安が大きかったことを思い出します。私たちは時間の経過とともに「記憶」を基にして、環境の変化に対応していくことができたり、不安な気持ちを友人や家族に話したり聴いたりしてもら

いながら不安を取り除くことができます。ですが、認知症の方は「記憶」やその他の機能低下がみられることがあるため、なかなか馴染むことができずに不安な気持ちをいつも抱えています。

グループホームは認知症ケアに特化した施設です。認知症ケアの根本は「人の不安な気持ちを理解して、その気持ちに寄り添うこと」にあります。

今回の引っ越しでは、お部屋やトイレをわかりやすくしたり、顔なじみの職員がお話を聞いたりしながらご利用者さんが少しでも安心して新しい環境に馴染めるようにしました。

皆さん初めは不安そうな表情をされていましたが、今では「外の桜がきれいだね」と穏やかに生活されています。移転新築のグループホームは、目の前に手に掴めるくらいの距離で桜が満開になりました。

今年はこのような状況下なので、外でお花見もできませんでしたが、「来年こそはみんなで桜を見ながら『乾杯』がしたいね。」と話しています。

また認知症のことで困りごとがあったら「あっ、そうだ、グループホーム和田に相談してみよう」と言われるような、地域の中でも頼られる施設にしていきたいと思います。



ゆったり過ごせるこたつスペース

## 新しい設備が導入されました。



自動火災報知器・ケアコールシステム



床走行リフト

シャワーリフト

令和3年6月1日

発行者：社会福祉法人依田窪福祉会 理事長：渡邊 和美 編集：広報委員会 所在地：〒386-0503 長野県上田市下武石776-1  
TEL.0268-85-2202 FAX.0268-41-4200 E-mail:info@yodakubofukushikai.jp